



No.108

# さいばい ニュース

公益財団法人  
 神奈川県栽培漁業協会  
 発行所 〒238-0237  
 神奈川県三浦市三崎町  
 城ヶ島養老子  
 ☎ 046(882)6980  
 FAX046(881)2233

## 令和元年度 事業計画

### 水産資源維持を目指して マダイ・アワビなど種苗生産・放流 補助金ゼロ、懸命に事業展開

#### 基本方針

当協会は昭和六十一年「栽培漁業に関する事業を行うことにより、水産資源の維持増大を図り、漁業の振興と県民生活の向上に寄与する。」ことを目的に設立され、今年で三十三年目を迎えます。今年度はマダイ、アワビ、クロダイ種苗の生産を行い、東京湾並びに相模湾への放流、漁業協同組合を始めとする水産団体への供給を行います。更に、業界の強い要望であるヒラメなどの種苗

を入手し放流します。これら当協会の中核事業である種苗生産・放流並びに供給事業を行うことと、神奈川県の水産資源の維持増大を図ります。そして栽培漁業と当協会の活動について理解と協力が得られるよう、漁業者はもとより広く神奈川県民に対し、東京湾並びに相模湾の海洋環境の保全と水産資源を豊かに保つ必要性を訴えるため普及啓発活動を行います。また、事業の執行については、経費の見直しを行い、効率的な協会運営に努めます。



漁業者から要望の強い、ヒラメ種苗放流

①マダイ種苗放流事業(全長60mm以上)

放流場所	放流尾数
東京湾海域	100,000尾
三浦半島海域	100,000尾
西湘海域	100,000尾
計	300,000尾

②ヒラメ種苗放流事業(全長60mm以上)

放流場所	放流尾数
東京湾海域	20,000尾
三浦半島海域	20,000尾
西湘海域	20,000尾
計	60,000尾

(1) 種苗放流事業

(2) 普及啓発事業

①PR推進事業  
 「栽培ニュース」(二千部/回、年二回)を作成し県内の漁協、水産団体、遊漁団体、教育及び公共機関等へ配布し当協会の広報活動を実施します。

②イベント推進事業  
 各地の地域イベント等に参加し漁業者はもとより一般県民に対して水産資源の保護、海洋環境の保全を強く訴え、栽培漁業の普及啓発を行います。

(3) 調査事業  
 マダイ遊漁標本船調査 県内マダイ遊漁船の中から川崎市から湯河原町までのマダイ遊漁船に標本船調査を実施します。(標本船十二隻)

## 令和元年度

### 予算

平成三十一年度令和元年度の予算は、収入が一億四千八百一十九万九千九百九十九円、支出は一億四千七百七十八万六千円としました。収入における昨年までの比較では、太平洋南海域栽培漁業推進協議会でのヒラメ資源造成事業

また、サザエ種苗の県外販売の中断、県内沿岸

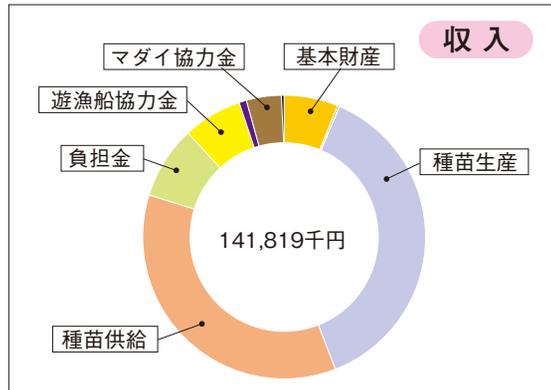
かなり厳しい予算となりますが、工夫と努力で神奈川県内の資源を増大していきたいと思っております。



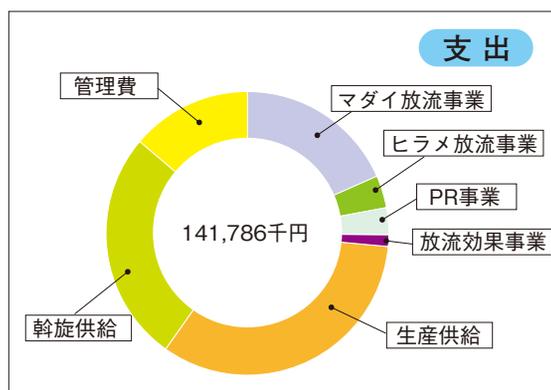
今年度もマダイ種苗放流

の磯焼けがおきている漁業協同組合がアワビ種苗の購入数を控えているため、平成三十年度と比較すると二千万円ほど減収の見込みです。支出では、昨年度アワビ種苗生産が不調だったことにより、県外から種苗を購入したことから、LED光照射実験の百三十九万円がなくなり、補助金等がゼロになったことと、完全に神奈川県栽培漁業協会の事業は受益者負担のだけで運営することとなりました。

収入	千円	割合(%)
基本財産	8,726	6.15
特定資産	260	0.18
会費	100	0.07
種苗生産	53,437	37.68
種苗供給	50,609	35.69
補助金等	0	0
負担金	11,775	8.3
遊漁船協力金	9,562	6.74
募金	1,200	0.85
マダイ協力金	5,000	3.53
雑収入	250	0.18
計	141,819	100



支出	千円	割合(%)
マダイ放流事業	26,056	18.38
ヒラメ放流事業	5,262	3.71
PR事業	4,345	3.06
放流効果調査	1,888	1.33
生産供給	47,478	33.49
斡旋供給	37,320	26.32
管理費	19,437	13.71
計	141,786	100



当協会は、「限りある水産資源の培養と有効利用」を目指し、「栽培漁業」につくり育てる漁業と生態系を育む豊かな「水環境づくり」を積極的・効果的に進めており、その中でも重要なのがマダイ、ヒラメなどの各種の種苗放流事業です。この活動に必要な費用の一部として、漁業者と遊漁船業者から毎年決まった額の負担金・協力金を拠出していただき、また、マダイ釣りを進めている人を対象に遊漁船業者は「マダイ協力金」を集めてくれていまして、平成九年から海を利用して釣る釣り人や企業に「賛助会員」に入会してもらい、個人会員の皆さんからは年会費三千円を出していただいています。▼「賛助会員」入会をお願いを始めてから二十二年間、協力を続けていただいている会員も多くいるのですが、一方で、高齢化などで年々会員が少なくなっていることも事実です。▼協会は各種補助金がゼロになるという厳しい運営を余儀なくされていますが、資源維持のため水産種苗生産・放流事業を続けていかなければならないと考えています。▼一人でも多くの方に賛助会員に入会していただき、協会事業を支援していただければ、と願っています。



令和元年度  
**種苗生産事業**  
**幹旋供給事業**

(4) 種苗供給事業  
 ① 生産供給  
 アワビ、サザエ、トコブシ、マダイ、クロダイ種苗を生産し漁協をはじめ水産団体へ供給します。特に、サザエ種苗を安定生産し、関係機関に供給できるように取組みます。  
 ② 幹旋供給  
 ヒラメ、カサゴ、メバル、トラフグなどの種苗を入手し、漁業協同組合をはじめとする水産団体等へ供給します。

事業名	種苗名(サイズ)	31年度(計画)	30年度(実績)
生産供給	アワビ(5mm)	20,000個	20,000個
	”(25mm)	210,000個	188,330個
	”(30mm)	40,000個	31,530個
	サザエ(20mm)	200,000個	297,660個
	トコブシ(20mm)	50,000個	59,200個
	*トコブシ(大型)	20,000個	11,164個
	マダイ(60mm)	250,000尾	247,830尾
	クロダイ(60mm)	80,000尾	63,000尾
	マコガレイ(30mm)	0尾	26,500尾
	マコガレイ(40mm)	0尾	22,000尾
幹旋供給	ヒラメ(60mm)	250,000尾	234,225尾
	マコガレイ(30mm)	35,000尾	0尾
	メバル(60mm)	30,000尾	34,000尾
	カサゴ(60mm)	180,000尾	191,300尾
	トラフグ(50mm)	13,000尾	12,500尾
	カワハギ(50mm)	11,000尾	11,000尾

\*養殖用種苗

### 平成三十年度決算報告

### 事業活動収支差額マイナスに

平成三十年度の決算は、事業活動収入計は一億四千七百九十二万六千円、事業活動支出計として一億八千二百九十五万七千二百二十八円でした。事業活動収支差額は、すなわち収入と支出の差額がマイナスの三千五百二万六千円でした。このマイナスの要因は、定年退職者の退職金の支払とアワビ種苗生産の不調による県外から種苗の購入などがありました。さらに、施設の老朽化

資産の部、流動資産のうち棚卸資産をゼロにしました。これは、今まで棚卸資産を種苗の譲渡が法人税法上の収益事業としていたため、課税所得算定の必要性から計上していましたが、当協会の事業は公益目的の事業として認定されていたので、法人税法上課税対象とならないため棚卸資産約二千万円を計上しないこととしました。

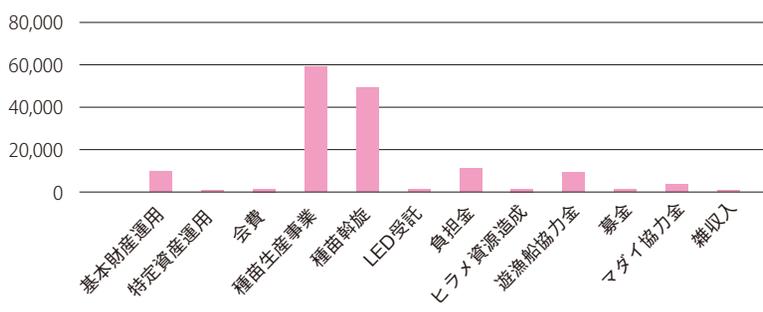
これらのことよって正味財産合計は三千六百七十七万七千六百六十円、負債及び正味財産合計は三千六百六十六万二千三百二十五円のマイナスとなりました。

### 平成30年度決算

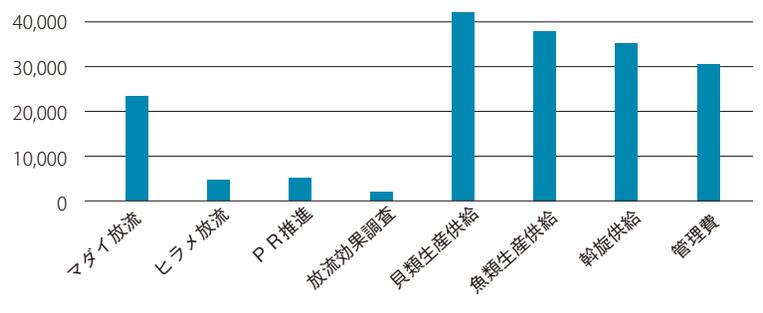
支出	千円	割合(%)
マダイ放流	23,256	12.71
ヒラメ放流	4,529	2.48
PR推進	4,980	2.72
放流効果調査	2,463	1.35
貝類生産供給	42,385	23.17
魚類生産供給	38,165	20.86
幹旋供給	36,165	19.77
管理費	30,365	16.6
計	182,952	100

収入	千円	割合(%)
基本財産運用	8,811	5.96
特定資産運用	317	0.21
会費	968	0.65
種苗生産事業	59,614	40.3
種苗幹旋	48,016	32.46
LED受託	1,392	0.94
負担金	11,460	7.75
ヒラメ資源造成	2,108	1.43
遊漁船協力金	9,561	6.46
募金	1,448	0.98
マダイ協力金	4,047	2.74
雑収入	179	0.12
計	147,926	100

収入計147,926千円



支出計182,952千円



日本釣振興会神奈川県支部  
**ヒラメ種苗五千尾を放流**

#### 小田和湾で漁業者

日本釣振興会神奈川県支部は六月二日、横須賀市長井地先に合計五千尾のヒラメ種苗を放流しました。このうち四千尾は、長井町漁協所属の漁業者がら丁寧な海に放流しま

漁業者がヒラメ種苗放流



荒崎で子どもたちも放流

が協力して小田和湾に放流しました。

#### 荒崎は子どもたち

残りの千尾のヒラメ種苗は、「地域の未来を考へる会」が実施した「荒崎海岸クリーンフェスタ2019」に参加した子どもたちが同支部、当協会職員、同フェスタに参加した父兄が手渡しで運んだ小さなバケツに入ったヒラメ種苗を放流しま

11月1日  
**相模湾シンポ**

第四十三回「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウムは十一月一日、「新しい水産資源管理の方向と黒潮大蛇行に関する話題の提供、漁業現場からの意見を聞き総合討論を行います。」

中国舟山市の  
**大学研究者が来会  
 協会活動を研修**



来会した舟山市の人たちと

二月十八日に東京海洋大学胡夫祥教授の案内で中国浙江省舟山市海洋与漁局副局長、浙江省海洋水産研究所教授、浙江海洋大学教授ら行政・研究所・大学研究者六人が当協会を訪れ、協会の活動を研修していただきました。

今回のシンポジウムでは現行の最大持続生産量理論を根幹にした資源変動の課題と海況変動を考慮した新しい資源管理の方向を学び、さらに、平成二十九年九月に発生した黒潮大蛇行の特徴と、大蛇行の相模湾及び周辺海域の海況・漁況の関わりを議論、今後の相模湾漁業の管理方針に役立てていくことにしています。このため、新しい資源管理の方向について基調講演が行われ、黒潮大蛇行に関する話題の提供、漁業現場からの意見を聞き総合討論を行います。

第24回 全国青年・女性漁業者交流大会

横浜市漁協が農林水産大臣賞受賞



アマモ場造成を発表した齋田さん

第二十四回全国青年・女性漁業者交流大会は、三月一日に東京で開催され、多面的機能・環境保全部門で「横浜ベイサイドマリーナにおけるアマモ場造成について」多様な関係者との協働による「アマモ場の再生」を発表した横浜市漁協の齋田芳之さんが農林水産大臣賞を受賞しました。



多数が出席した説明会

神奈川県水産課は六月十一日、平成三十一年度(令和元年度)主要施策・当初予算説明会を開きました。百人を超す関係者が出席しました。神奈川県水産課長は、滝口直之水産課長は、「昨年度の県下の漁業は厳しかったが、種苗放流したトラフグが産卵したことが確認できるといいます。明るい兆しもありました」とあいさつしました。磯焼け対策や県産野菜の残さを餌とする「キャベツウニ」といわれている「ムラサキウニ」養殖技術開発事業には、440万円の予算を計上しました。「沿岸水産資源再生技術開発事業(事業費420万円)では、ウニ類

元神奈川県漁業協同組合連合会の副会長で、みうら漁協の元組合長でもあった三浦市南下浦町の木村和之さんは、三浦地域の水産業の振興や神奈川県の水産団体幹部として系統活動にも大きな功績があった、と今年春の叙勲で旭日双光章を受賞しました。



木村さん

この後、木村みうら漁協組合長は、神奈川県漁連の副会長及び神奈川県信漁連の副会長に選出され、共水連神奈川県事務所長などの神奈川県水産団体の要職を歴任し、神奈川県下の漁協系統運動の推進・発展に貢献しました。

木村和之さんが旭日双光章受賞

このように、定置網漁業の経営に積極的に取り組むとともに、みうら漁協の組合長として漁協系統運動の発展に尽力し、JFグループの模範となる人であるとして、平成二十一年度漁協運動功労者として全国漁業協同組合連合会から表彰されました。



家庭用LED照明採用した魚類飼育水槽



貝類飼育水槽

また、業務用に比べて設置費用も安く電球の交換も簡易であることもおおきなメリットです。明るさは問題なく、今のところ種苗生産は順調に進んでいます。詳しくは当協会ホームページの「さいばい日誌」にて。

種苗飼育現場で家庭用LED照明採用

珪藻が育ち稚貝が食べることを確認して

当協会では今年度より家庭用LED照明を飼育現場に取り入れています。貝類では、剥離後の小さいサイズのアワビやサザエの稚貝が配合飼料に

ることと、稚貝がその珪藻を食べることを確認したため、今年度から飼育水槽でもLEDを使用しています。魚類では、今まで使用していた水銀灯の代わりに家庭用LED照明を使用しています。これは今後の水銀灯製造廃止への対応策であると同時に、電気代の大幅カットを見込んでのことです。

栽培漁業って何(26)

公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会 専務理事 今井利為

ダイを測定することに難色を示しました。それはそうです。キロ当たり六千円から一万円もするマダイを弱らせて、活きを落としたり単価が下がり、その補償をしてくれないのか。恐る恐る手で網で引上げて素早く体長を測定する作業を心配顔で眺めていた人たちは、私たちの取り扱いを見て安心したらしく、時間が経つにつれ、県下、七箇所の市場で測定が可能となってきました。



今年度も、他所の県では、活魚の測定は断られていたの話を聞きます。その点、神奈川県漁師、市場関係者には暖かい眼差しで見えていただいております。測定に協力していただいで、感謝の気持ちで一杯です。こうして体長を測定し、鼻孔の形を確認して放流魚か天然魚か識別します。測定した体長をマダイの成長に照らしあわせて、何歳魚が何パーセント含まれているか分離します。平成二十年度までは、(つづく)

また、業務用に比べて設置費用も安く電球の交換も簡易であることもおおきなメリットです。明るさは問題なく、今のところ種苗生産は順調に進んでいます。詳しくは当協会ホームページの「さいばい日誌」にて。

近年、生産技術の改良が進み、鼻孔の異常魚の生産比率が小さくなり、これを標識として放流の効果を出す手法が使えるようになってきました。

放流効果の推定 放流したマダイの効果 をどのようにして推定するか、難しいと思いませんか。確かに、海の中のことです。誰も直接見たことありませんし、できません。そこで、選挙や世論調査の時に使う統計方法をもつて推定しています。まず、市場に行つて水揚げされたマダイの体長を測定します。この作業は地道で朝早くから水揚げ直後の魚を物差しで計ります。調査当初、漁師や市場関係者は活魚で活けたマ

神奈川漁港めぐり・・・シリーズ⑥

# 第2種「佐島漁港」

— 定置網、刺網、釣り漁業が盛ん —



定置網漁船などの基地、佐島漁港



名の知れた「佐島ダコ」の水揚げ

相模湾に面し、横須賀市佐島にある「佐島漁港」は、定置網漁業や刺網漁業が盛んに行われており、シラス船曳網漁業などこの漁港を母港にして鮮度抜群の旬の魚介類を水揚げしています。

水揚げされる魚介類の主なものはイワシ、アジ類、サバ、ブリ類などですが、五月まではエビ網といわれる網でイセエビが漁獲され、水揚げされています。また、首都圏でも「おいしい」と人気の「佐島ダコ」も水揚げされます。



魚市場荷捌場

楠漁業所属の漁船ですが、他港の漁船がカツオを水揚げすることもあります。佐島漁港の整備は古くから始まっており、昭和九年に基本施設と2号防波堤が築造され、その後、昭和二十六年に漁港整備計画が樹立され、この年に漁港整備計画対象港として承認されました。

そして、昭和二十七年頃から第一次漁港整備計画が着手されました。現在は漁港漁場整備長期計画により整備が進められています。主な漁港施設は外郭施設として防波堤や護岸、係留施設として岸壁、物揚場、船揚場、水域施設として泊地があり、横須賀市大楠漁協地方卸売市場が開設され、水揚げ物の卸売業務を行っています。

## 横須賀市浦賀でカワハギ 種苗を放流



浦賀でカワハギ種苗放流

四月十日、横須賀市浦賀で一般財団法人東京湾南部水産振興事業団の事業としてカワハギ種苗の放流がありました。放流尾は、一万一千尾で全長は十センチメートルと大きな種苗でした。二百尾に赤色のアンカータグを付けて放流しました。

カワハギは、煮ても刺身でもおいしく、特にのキモはおいしく、特に漁村の民宿などではシズンになるとこの魚料理を食べに来るお客さんがいるそうです。また、遊漁者がカワハギ狙いの釣りを楽しみむほど、人気のある魚です。

再捕された方は、再捕年月日、再捕場所、大きさ(全長)を東京湾南部水産事業団、電話046-834-3596にご連絡下さい。

## 葉山町でヒラメの稚魚放流



漁業者がヒラメ種苗放流

五月十八日に葉山町でヒラメ種苗の放流が行われました。公益財団法人相模湾水産振興事業団と葉山町漁協が合同で行った放流で、同事業団が三千、同漁協が二千尾の合計五千尾でした。

同日朝、同漁協事務所に運ばれてきたヒラメ種苗は、漁船に積み替えられて葉山町地先の海に放流されました。

この日は、自治体が主催して行った「海山に育ち親しむ子どもたち」というイベントも併せて行われました。子どもたちが海に入り、小さなバケツに入れてもらったヒラメの稚魚を、「大きく育ててね」と声をかけて放流しました。

## 栽培漁業寄付 シーボニア



寄付を受ける今井専務(右)

三浦市油壺にあるリビエラリゾートシーボニアは五月十九日、「キスマスター2019」を開催しました。六十七チームがヨット、モーターボートに乗りキス釣りを楽しみ、参加費の一部を当協会に寄付してくれました。また、釣ったキスの一部を三浦市社会福祉協議会に贈りました。

同社の渡邊藤朗副会長は「今回も国交省、神奈川県、三浦市の後援をいただき、キスマスターを開催することができました。そして、皆さんの参加費の一部を神奈川県栽培漁業協会に寄付させていただきます。なお、海に浮かぶプラスチックゴミの回収などによる海の環境保護活動が続けていきます」とあいさつしました。

寄付を受けた当協会の

## 棒面丸



寄付を手に、樋代さんと

三浦市松輪の遊漁船・棒面丸は今年も「ラブラブマダイ2018」の表釣り人の参加費の一部を積み立てて当協会に寄付してくれています。また、昨年のマダイ釣りで優勝した樋代さんが入賞者を代表して当協会の今井利為専務に寄付を手渡しました。

彰式で当協会に五万円を寄付してくれました。同船は十年以上前からマダイ釣り大会を行い、釣り人の参加費の一部を積み立てて当協会に寄付してくれています。また、昨年のマダイ釣りで優勝した樋代さんが入賞者を代表して当協会の今井利為専務に寄付を手渡しました。



## 編集後記

近年、神奈川県地先特に三浦半島から相模湾にかけての海で、藻場の喪失による磯焼けが大きな問題になっています。私たちが懸命に種苗生産を行っても、「種をまいて育てる」藻場(畑)が失われているのです。磯焼けの原因といわれているのが、地球温暖化による海水温の上昇で、比較的南方に棲んでいる

アイゴという魚が北上してきて、海藻を食べしてしまうからです。それに、繁殖力の強いウニ類も加わり、海藻の葉を食べ尽くしています。そのため岩礁が「焼け野原」のような状況になっています。

私たち、つくり育てる栽培漁業を行っている者にとっても、「藻場の再生」は緊急の課題になっていることは間違いありません。



春木 職員

## ◆新職員紹介◆

協会は、春木隆之さんを職員として採用しました。春木職員は当協会です。春木職員は当協会です。春木職員は当協会です。

## □春木隆之職員

新元号の令和になりました。この種苗生産の仕事はこれからの時代、ますます重要なポジションになると思います。故に、次の世代にバトンを渡すことができるように日々精進していきたいと思っております。よろしくお願致します。